

第3回審議会までの積み残し事項の整理

※網掛けは第4回でご議論いただきたい事項

委員名	ご指摘・ご意見の内容	頁	対応方法	第4回までの着地点
●分野別計画第1章について				
1 有馬委員	子どもや高齢者、女性に対する虐待・DV被害防止のため、緊急避難の体制が必要だと思う。相談体制は充実しているが、地域で支援するための体制として、一時避難の場所を地域に作る事業を計画に盛り込んでほしい。	P51 P57 P167	子ども(P51)、高齢者(P57)、女性(P167)に関して記載する各頁に分割して整理。事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P1】	
2 有馬委員	3-3-2か、1-2-2施策3)保育の充実(P51)かはわからないが、病児・病後児保育の充実を目指した事業を行ってほしい。働く母親が増加する中で、待機児童対策とともに重要である。	P51	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P3】	
●分野別計画第3章について				
3 齋藤(哲)委員	生涯学習とは、家庭教育・学校教育・社会教育も含めての総合的な考え方であるが、生涯学習が学校外の活動や学校卒業後の学習活動ととらえている人が未だに数多くいる。「生涯学習」の説明をもっと詳しく書く必要がある。	P104	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P5】	
4 齋藤(哲)委員	(3-1-1、3-1-2について)「船橋市生涯学習基本構想・推進計画(ふなばし一番星プラン)」(平成12年度策定)は、今後見直すべき。そうした状況との整合も視野に置くべきである。	P104	現在平成24年度からの新計画(ふなばし一番星プラン)の策定作業中であり、その中で整合を図っていく。	
5 有馬委員	地区コミュニティの話があったが、生涯学習の行いやすさに地域的な格差はないか? 「生涯学習難民」を生じさせない施策が必要である。地域間格差の有無を調査して、数値化できないか。地域の問題があれば聞きたい。	P104 ~105	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P6】	
6 まき委員	3-1-1指標に「まちづくり出前講座実施件数」が挙げられているが、生涯学習の推進の指標として相応しいか疑問である。まちづくり出前講座は、市の施策について市民に理解を求め、意見をもらうものと認識している。これを生涯学習としてよいのか? 市の認識を確認したい。	P104	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P7】	
7 本木委員	平成20年6月に社会教育法が改正され、5条15項で、生涯学習の成果を地域の活動に活かすという条項が追加された。3-1-2のめざすべき姿は、これを受けてのものか? 確認したい。	P106	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P9】	
追加 河村委員	3-1-2基本施策(大分類)の名称を変えた理由は時代・環境の変化に対応させかつ後期では重点施策にしようとしたためと思われる。もしそうであれば、少なくとも現状と課題のところでは背景や重要性を強調した方がよいと思う。	P107	事務局にて、対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P11】	
8 齋藤(哲)委員	3-1-2施策1)学校・家庭・地域の連携・融合の推進について、「融合」という語は文部省が良く使うが、一般の市民には「連携」や「協力」の方が分かりやすいのではないか。	P107	ご意見として受け、今後事務局にて庁内調整	
9 齋藤(哲)委員	3-1-2施策1)家庭・学校・地域の連携・融合の推進については、家庭・学校・地域をどう連携させるかが重要。地域に何が必要か、家庭の教育力・地域の教育力において、具体的に何が弱っているかを押さえてほしい。	P107	ご指摘の点については、P112「331関係機関との連携による家庭と地域の教育力の向上」の現状と課題において追加予定(後述)	

委員名	ご指摘・ご意見の内容	頁	対応方法	第4回までの着地点
10 金沢委員	中ホールの建設については議会で陳情が採択されている。新たな創造や活動が可能になるとの理由。3-2-1施策1)芸術文化の振興に、中ホールの建設に関する記述を追加してほしい。	P109	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P12】	
11 金沢委員	3-3-1で使われている「家庭教育」「地域や家庭の教育力」は新しい概念。使う場合は船橋市における定義(何を意味するのか)の説明が必要ではないか。	P112		
12 まき委員	家庭のあり方が多様化している中で、家庭教育に関する記述の仕方は、このままで適当か。	P112	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P13】	
13 有馬委員	世帯人数や出生数の減少、離婚率や再婚率の増加、兄弟姉妹の関係の変化など、家庭の姿も変化している。現状と課題に「家庭や地域の教育力の低下」とあるが、「低下」というより「変化」ではないか。「家庭の教育力の低下」と記載する場合、どのような意味で使うのかを示した方が良	P112		
14 本木委員	H22年4月に策定された「教育振興ビジョン及び教育振興基本計画(ふなばしの教育)」の基本方針の中で、地域の教育力の向上についても掲げられている。	P112		
追加 河村委員	3-1-2基本施策(大分類)の名称を変えた理由は時代・環境の変化に対応させかつ後期では重点施策にしようとしたためと思われる。もしそうであれば、少なくとも現状と課題のところでは背景や重要性を強調した方がよいと思う。	P112		
15 村田委員	めざすべき姿の「地域で子どもを守り育てる環境が確立されている状態」という表現に違和感を感じる。そのような環境は確立されていないし、家庭自体の崩壊も起きている中で、おおざっぱに括って「教育」を語っていいのか。いろいろな面を検討して答申すべきだと思う。	P112	今後目指していきたい姿。という中で、上記の整理で対応。	
16 有馬委員	家庭教育支援については、県が「学校から発信する家庭教育支援」という事業を開始し、県内全域に資料等を配布している。学校から積極的に発信することが必要。県の動きと整合を図り、取り組んではどうか。	P112	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P15】	
17 金沢委員	子どもの自殺やいじめの問題について、子どもたちが自らの生きる権利や学ぶ権利について、学ぶことが必要だと考える。3-3-2に「子どもの権利条約」の考え方を活かさないか。他の政策で対応しているならばそれで良いのだが。	P114	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P16】	
18 まき委員	3-3-2に関して、子どもたちの自己自認(自分が自分であることを認められること)や、ここに生まれて良かったという意識の低下が問題になっている。子どもたちが、自分が大切にされているという認識を持てることが大切であり、そうした記載をしたら良いと思う。	P114		
19 本木委員	3-3-2の指標として「特別支援学級設置校数」を上げていることに関連して、旧高一小学校跡地に入っている特別支援学校の小学部が、残る8年間でその方向性を検討していく必要がある。その後どうするのか気になる。後期基本計画に盛り込む必要はないか。	P114	当該施設の施設利用が暫定的となっているのは、団地近傍の他の小学校が過密となる事態が生じた場合は、旧高根台第一小学校の再開校を検討する必要があるためである。方向性の検討は必要であるが、10年後に必ずしも廃止されるものではないため、後期基本計画に盛り込むことは考えていない。	

委員名	ご指摘・ご意見の内容	頁	対応方法	第4回までの着地点
20 森田委員	3-3-2の指標として、「学校の授業が分かると答えた児童生徒の割合」を掲げ、目標値100%としている。「理想値」とのことだが、具体的にどのように実現するのか。人材教育は重要であり、これができるれば、船橋がとても魅力あるまちになると思う。	P115	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P18】	
21 まき委員	3-3-2の指標「学校の授業が分かると答えた児童生徒の割合」の現状値(小6=86%、中2=67%)は数字は高すぎる気がするが、現状を正しく把握したと認識しているのか？	P115		
22 まき委員	3-3-2施策2)の主要事業「教職員が子どもたちに向き合う体制の整備」とは、どのようなことを指しているのか？	P115	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P19】	
23 本木委員	3-3-3指標の「青少年の環境を良くする市民の会活動の事業参加者数」が468人(現状値)⇒500人(目標値)は、少なすぎるように感じるが、どういう数字の取り方をしているのか。	P118	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P20】	
24 金沢委員	3-3-3施策3)青少年施設の整備と利用促進について、市内には青少年向けの施設が少ない。若松に青少年会館があるが不便な立地。主要事業に「青少年施設の活用の促進」とあるが、そもそも充足しているのか？施設そのものを増やすことが必要ではないか。	P119	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P21】	
25 本木委員	児童ホームは対象年齢が0～18歳であり、青少年向けの施設として考えることも可能だと思う。児童ホームの活用を今後どのようにしていくべきか、大きな問題である。	P119		
●分野別計画第4章について				
26 椎名委員	4-1-1のめざすべき姿に「多くの人々が本市の良さを知る」とあるが、「本市」だと船橋駅周辺のみをイメージしているように感じる。各商業集積を含めた市全体の良さを知るという意味になるよう検討してほしい。	P126	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P22】	
27 まき委員	歴史的な施設や、自然・観光資源を生かし、地域特性を街の活力やにぎわいにつなげることが必要。特に、船橋の周辺地域(習志野、市川、松戸、鎌ヶ谷に近い辺縁部)について、それぞれの特性に応じた産業振興やまちづくりを、10年間で考えていくべきである。	P126		
28 金沢委員	4-1-1施策1)産品ブランドの推進で、船橋には小松菜などの産品ブランドが既にあるのに、なぜ指標の現状値がないのか。また、ここで産品ブランドについて掲載すると、農業や漁業のところで掲載できなくなる。取り扱いをどうするべきか。	P127	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P23】	
29 椎名委員	4-1-1施策1)産品ブランドの推進で、船橋には小松菜やセイゴ・フッコ等の優れた産品があるのに、商業振興につながっていないのが残念。1～2年で具体的に産品を絞り込み、10年かけて育てていくことが重要だと思う。	P127		
追加 河村委員	船橋での開業率はどのくらいなのでしょう。ベンチャープラザの稼働率だけでなく開業率も起業支援の指標としてはどうでしょうか。	P128	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P24】	
30 森田委員	4-1-2施策2)新規・有望産業の育成や誘致に関連して、船橋だけでなく全国的に、新規・有望産業が出て来にくくなっている。本来国が取り組むべきことだが、船橋市において先進的に取り組むことが望ましい。ベンチャープラザ35室の入居率を100%にすることを目標にしているが、もっと規模を大きく出来ないか。	P128 ～129		
31 椎名委員	4-1-2施策1)総合的な産業振興の推進については、絵にかいた餅で終わらせてはいけない。平成14年度に策定した「船橋市商工振興ビジョン」は、今でも十分通用する内容だ。逆にいえば、あの当時からあまり進んでいないのだと思う。主要事業に具体的なものを出す必要あり。	P129	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P25】	

委員名	ご指摘・ご意見の内容	頁	対応方法	第4回までの着地点
32 金沢委員	4-1-3魅力ある商業の振興で、大型店舗向けの施策と地元の商店街向けの施策は、分けて書いた方が良いのではないかと。	P130		
33 椎名委員	大型店が伸びる一方、零細小売店はつぶれていく傾向にある。経営者の生活だけでなく、買い物弱者の発生と言う問題も生じる。商店街や個人商店は子どもたちのシェルターにもなりえる街の財産。具体的な施策を打ち出す必要があるのではないかと。平成19年3月に「船橋市産業振興基本条例」が制定されたが有効性が弱い。無秩序な店舗展開を行う大型店には行政指導が必要である。	P130	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P26】	
34 椎名委員	4-1-3施策1)商業環境の整備の本文に「歩行者空間の整備」と書かれているが、放置自転車が歩道が狭い。駐輪場を設置する用地がなければ、地下に作っても、歩行者空間を確保してほしい。商店街と行政が協働してまちを形成するという視点を計画に盛り込んでほしい。	P130	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P27】	
35 まき委員	4-1-6の現状と課題で、ニート問題等への言及がある。国でも大きな課題として進めている職業教育の重要性に触れてほしい。	P136	事務局にて、補足説明を整理。【別紙P28】	
36 斎藤(哲)委員	ニート問題等に関連して、若者が地域社会の実態を知らず、大企業を目指す傾向がある。中小企業は人材不足。職業教育とともに、働く意味や技術の継承、若者への魅力ある職場のPRなどが重要となっている。	P129	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P29】	
37 北澤委員	船橋において生物の重要な生息地になっているのは、水田や干潟である。農業・漁業は生物や環境を守る産業。農業・漁業を通じて環境を守っていくという役割を、方針に記載すべきだと思う。	P138 ~143	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P30】	
38 川井委員	4-2-1の指標として、遊休農地(耕作放棄地)の解消も加えるべき。現状値をとることで、どれだけ耕作放棄が進んでいるか、危機感が見えるだろう。	P138	指標に耕作放棄地面積の指標を加える	
39 北澤委員	船橋市の耕作放棄地は約8%と県平均よりは少ないが、耕作に不利な谷津の狭いところ等は、生物の生息環境としては重要性が高い。こうした場所を「環境を守る場」として活用してはどうか。また、その点を2章か4章に記載できないか。	P138	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P31】	
40 川井委員	畜産業については、P140に「農畜産物についての情報提供」とあるのみだ。畜産業の振興についても、具体的な記述がほしい。	P138 ~139	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P32】	
41 まき委員	生産の場と直結した消費生活が成り立つのが、船橋の特徴・魅力である。どこかに記載してほしい。	P138 ~139	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P33】	
42 金沢委員	4-3-1安心できる消費生活の確立に、高齢者向けの対策や高齢消費者の保護を加えてほしい。指標に「消費生活相談自主交渉解決率」が挙げられているが、高齢者に自主的な解決は難しい。	P144	事務局にて、補足説明や対応方針を整理。引き続き、ご議論をお願いしたい。【別紙P34】	